

第30回朝霞市民まつり「彩夏祭」で自衛隊をPR（埼玉）

埼玉地本（本部長・山本方之1空佐）は、8月3日（土）、4日（日）、第30回朝霞市民まつり「彩夏祭」において広報ブースを展開した。

昭和59年に始まった「彩夏祭」においては以前から朝霞駐屯地所在の部隊が例年支援を実施してきたが、今回朝霞市からの強い要望もあり、駐屯地広報班からの紹介を受け埼玉地本が初めて募集広報を実施することになったものである。

彩夏祭は今年で30回目の節目を迎え、70万人を超える来場者が見込まれる一大イベントとなっており、偽装網が掛けられ、存在感のある目立つ広報ブースにはたくさんの来場者が訪れていた。



ブースでは写真パネルやミリ飯（戦闘糧食）の展示の他に、南極の氷も展示され、初めて見る南極の氷を触ったり、溶ける音を聞いたり等、貴重な体験に歓声を上げ、家族連れで来ていた小学生からは「戦車やヘリコプターなど色々な写真が見れてすごく嬉しかったです。また南極の氷がパチパチ音を立てながら溶けていくのが面白かったです。」と興奮気味に話してくれた。さらにミニ戦闘服の試着コーナーには、小さいお子さんから中高生まで幅広い年齢層の人達で、順番待ちの行列ができるほどの大盛況であった。ミニ戦闘服を着た子供たちは満面の笑みを浮かべ埼玉地本のゆるキャラ「サイポン3兄弟」と一緒にたくさんの記念写真を撮っていた。



また自衛隊に興味があると話す大学生からは、「戦闘糧食の種類が多さに驚きました。また陸海空の自衛官の方から、貴重な話を聞くことが出来、とても勉強になりました。色々な所で活躍する自衛隊にすごい魅力を感じます。」と嬉しそうに話していた。

二日間にあたるイベントは大きな成果を残し幕を閉じた。埼玉地本は今後も効果的なイベントを実施し、積極的に募集基盤の強化を図っていききたいと考えている。

